第6章 小 結

青谷上寺地遺跡は、弥生時代前期後葉に始まり、古墳時代前期初頭に至る集落遺跡である。集落の本体たる居住域は定かではないが、護岸施設を敷設する溝によって画された微高地域には、土坑群や焼土群が形成され、多量の遺物が散布している。遺物の組成や多量の貝殻、獣骨類の出土は、近隣に居住域が存在することを窺わせるが、微高地域の実体は今ひとつ不鮮明である。対して、微高地域の外側には水田域や湖沼が広がり、食糧生産活動の舞台であることが判明している。

護岸施設、水路などの大規模な土木工事や多種、多量の出土遺物が青谷上寺地遺跡の代名詞となることが多い。 しかし、当時の経済基盤たる生業活動の実体解明こそが、本遺跡を理解するために最も急務な事項と考えている。 またこれを行うに足る充分な資料も得られている。残念ながら力及ばず、本書では遺跡の概略を伝えるに留めざ るを得なかった。よって現時点で日の目を見ないままの資料が多数あり、残された課題も多い。ここでは、本書 中で充分に取り扱えなかった事項を列挙し、今後の課題として提示しておきたい。

出土遺物中には未製品や素材が多く含まれている。これらは明らかに本遺跡での生産活動を示すものであろうが、具体的な製作工程を明らかにするところにまでは至っていない。唯一玉作に関しては良好な資料が得られているので、次回報告で詳細が提示されるであろう。鉄器素材や石器の原石の出自及びその交易ルートの解明は重要であるし、また加工具の特定やその用法についても充分検討する必要がある。今回特にガラス製品については触れていないが、屈指の出土量を示しており、自給の可能性も考えられる。

木器の中には、多数の建築材が含まれており、当時の家屋構造を解明する良好な手掛かりを提供している。しかしこれらが、建物のどの部分にあたるものかという特定をほとんど行っておらず、本書掲載分もごく一部に留まった。大型建築材は一括性が窺われる溝埋土中の木器溜からの出土が多く、この場合同一建築物に帰属する部材の組合わせを検討することによって、弥生時代建築の復元に有効な資料となりうる。

大量に出土した獣魚骨類の同定結果は、次回報告に掲載される予定である。弥生時代の本遺跡周辺の生態系や 生業活動の解明に不可欠な情報であり、本遺跡が経済基盤として狩猟、漁撈に大いに依拠していたことを裏付け る資料となる。

祭祀遺物やト骨など、弥生人の精神世界に関わる遺物も多数出土している。充分な分析を行うには至らなかったが、祭祀行為、ト占行為の具体相を追及する上で、良好な資料を提供するものと思われる。また華麗な装身具や彩色盾などは、弥生人の色彩感覚や美意識を探る手掛かりとなるものであろう。

最も大量に出土した土器は、これもまた概略的な資料提示に留まった。一括資料が得られず、型式編年を行う ことは困難であるが、属性分析をつぶさに行えば、青谷上寺地遺跡の地域性が必ずや顕在化するであろう。

以上羅列的に列挙したが、課題は山積している。幸いなことに本遺跡は、今後も長期的に調査研究が継続されることとなった。今後の研究の深化に期待したい。

報告書抄録

| ふりがな | あおやかみじちいせき | | | | | | | | |
|--------------------------------------|--|------------|---|-------------------|--------------------|----------------------------------|----------|--------------------------|--------|
| 書名 | 青谷上寺地遺跡 3 | | | | | | | | |
| 副 書 名 | 一般国道 9 号改築工事(青谷・羽合道路)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 | | | | | | | | |
| 巻次 | VII . | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 鳥取県教育文化財団調査報告書 | | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 72 | | | | | | | | |
| 編著者名 | 北浦弘人、鬼頭紀子、湯村功、高尾浩司、井上貴央、古川郁夫 | | | | | | | | |
| 編集機関 | 財団法人鳥取県教育文化財団 | | | | | | | | |
| 所 在 地 | 〒680-0151 鳥取県岩美郡国府町宮下1260 TEL(0857)27-6711 | | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦2001(平成13)年3月30日 | | | | | | | | |
| ふりがな所収遺跡名 | ふりがな コ | | 遺跡番号 | 北緯 | 東 | 経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| ************************************ | とっとりけんけだから 鳥取県気高 を上寺地遺跡 一番の一番 を上寺地遺跡 | | 1-82 | 35° 30' 38" | 133° 59° 45° | , | 19980407 | 14,937㎡ (1 ⊠~ 5 ⊠) | 道路改良事業 |
| 所収遺跡名 | 種別主な時代主な遺構主な | | 主な遺 | 物 | 特 記 事 項 | | | | |
| 青谷上寺地遺跡(1区~5区) | 集落弥生 | E時代中期 | 土坑10、溝 4、杭列 6、 集石1、焼土1、ト骨 集積遺構1、漂着人骨 2 | | | 弥生土器、鉄器、石器、 ト骨、布 木器、骨角器 | | | |
| | | 時代後期 | 土坑106、溝13、杭列9、 土器溜3、集石4、焼 土7、漂着人骨1 | | | 弥生土器、鉄器、石器、 木器、骨角器、素文鏡、 銅鏃 | | | 銅鐸、ト骨 |
| | 古均 | 手時代 | 土坑 5、土器溜 1 | | | 土師器、須恵器 | | | |

鳥取県教育文化財団調査報告書 72

一般国道 9 号改築工事(青谷・羽合道路)に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書VII

鳥取県気高郡青谷町

青谷上寺地遺跡3

発 行 2001年3月30日

編 集 財団法人 鳥取県教育文化財団

鳥取県埋蔵文化財センター

〒680-0151 岩美郡国府町宮下1260

電話 (0857) 27-6711

発行者 財団法人 鳥取県教育文化財団

印 刷 日ノ丸印刷株式会社